

津波避難

シェルター地質掘削終了

室戸市 今月中旬に調査結果

【室戸】南海トラフ巨大地震の津波に備え、県が室戸市佐喜浜町都呂(つろ)地区に県内第1号の設置を目指している「津波避難シェルター」(横穴式)計画で1日、地質調査のボーリング作業が終了した。採取した砂岩などの強度調査も

【室戸】南海トラフ巨大地震の津波に備え、県が室戸市佐喜浜町都呂(つろ)地区に県内第1号の設置を目指している「津波避難シェルター」(横穴式)計画で1日、地質調査のボーリング作業が終了した。採取した砂岩などの強度調査も

今月中旬に完了する予定。県想定によると、同地区の最大浸水深は5〜10メートル。地震発生後10〜20分で、避難が困難になる高さ30センチの津波が到達する。山間部への避難路は傾斜が急で狭く、平地が少ないため避難タワー建設も難

斜面です。都呂教育集会所の北側

同社によるとボーリング機器を使い、海面に面した斜面の海拔約12メートル地点から水平方向に約28センチ、内陸の平坦な地から垂直に約24センチ掘り進むなどした。掘り出したのは大部分が砂岩で、一部泥岩が交じっているという。

(坂巻陽平)



シェルター設置の地質調査で行われたボーリング作業 (室戸市佐喜浜町)